

【秘書広報課長補佐】 お待たせをいたしました。

定刻の時刻となりましたので、ただいまより平成27年3月の市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、お手元の次第にあります5項目について発表をさせていただきます。よろしくお願いたします。質問につきましては、この事業発表についてからお伺いをしたいと思います。事業発表に係る質疑応答の後に、3番目のフリーの質疑応答へと進行させていただきます。なお終了のほうは14時30分を予定いたしておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、まだまだ3月には時間ございますけれども、選挙等の関係で議会も今年は少し早いということで、早目の会見になったところでございます。私にとりましても恐らくラスト2の会見になるんじゃないかなというふうに思っているところでございますけれども、今日は記者発表等々につきまして、3月の補正予算を含めた予算関係を含めたの発表とさせていただきますので、よろしくお願いいたしますと存じます。

ただ1点、2日から韓国、そしてロシアのほうに視察、またポートセールスに行っておりましたけれども、自分の不注意でずるっと滑ってしまいまして、痛い痛いなと思っていたら肋骨が2本折れておりまして、非常に声も出にくい状況でございますので、なるべく早く終わったほうがいいんじゃないかなというふうに思っているところでございます。

どうかよろしくお願いいたします。

それでは早速でありますけれども、まず3月補正のほうから、当初予算も含めて発表させていただきます。

まず27年度の当初予算の概要であります。この当初予算につきましては、選挙がございますので骨格予算というふうになるわけでございます。継続費、債務負担行為の設定されました事業、また早期に予算措置を必要とする事業を計上させていただき、市民生活に支障が出ないように留意をいたしたところであります。

予算の配分につきましては、本市の人口減少対策基本計画を着実に実現していくため、予算編成方針に掲げました重点施策に該当する事業を中心に配分を行ったところであります。その結果、新年度の予算規模は、前年度当初予算と比較して、一般会計は7.4%の減、全会計では2.3%の減となったものであります。

当初予算の主な事業といたしましては、お手元に配付した資料のとおりでありますけれども、重点施策ごとに申し上げますと、産業振興策の充実では、田結地区に計画しております第2産業団地の整備に向けた詳細設計等の経費を計上いたしました。子育て支援の充実では、放課後児童クラブや地域子ども教室を拡充し、運営していくための経費などを計上いたしました。人材育成の充実では、市立看護大学の運営支援や医療従事者の育成のため修学資金の貸与を行う予定であります。緊急経済対策の継続では、交流人口増加による域内経済の活性化を図るため、秋に予定をされております北陸デスティネーションキャンペーンに向けました関係施設の整備費や関連イベントの開催経費、広告経費等を計上いたしましたところであります。

次に、平成26年度の3月補正予算であります。一般会計では、基金の統廃合に伴う公共施設整備基金への積立金、年末年始の大雪等により不足を生じる道路除雪費、敦賀気比高校の選抜野球大会出場に係る激励費等を計上いたしたところであります。特別会計におきましては、産業団地整備事業特別会計のほうでは分譲地売り払い収入による公共施設整備基金借入金の返還金を計上したところであります。

以上が3月議会に提案いたします予算の概要であります。

それでは2番目であります。敦賀市のホームページのリニューアル化であります。

私ども敦賀市のほうでは平成20年に開設をいたしたところでございますけれども、やはりこの7年間に情報量の急激な増加もありましたし、利用者の閲覧環境の変化もございました。操作がしにくいでありますとか閲覧がしにくいなどの問題が生じてきておるところ

であります。

そのため、さらなる利便性の向上と行政情報をよりわかりやすくお伝えするため、敦賀市のホームページを全面的にリニューアルさせていただきます。公開日は3月1日、日曜日でありますけれども、0時からであります。利用者の皆さん方が敦賀市ホームページへアクセスされる際に、知りたい情報を誰もが素早くわかりやすくごらんいただけるように大幅に構成を変更いたしました。今後とも利用者の皆様にとって利用しやすいサイトを目指して運営に努めてまいりたいと思いますので、御利用のほどよろしくお願いを申し上げます。詳細等々、予算等につきましては、ここに記載のとおりでございます。

次に、つるが環境フェア2015 Green Picnicの開催であります。

環境問題というのは非常に重要でございますし、多くの皆さん方に関心を持っていただく必要があるわけでございます。そういう意味で、このつるが環境フェアを行ってきるところでございますけれども、今回は、今までは2日間に分けてやっておりましたけれども、3月14日土曜日、1日限りで朝の10時から夜の8時までということで、ここに記載のとおりきらめきみなと館で行いますし、協賛の多くの企業の皆さん方もお力を賜りました。ステージ、またワークショップ、そのほかということで開催をいたしますので、多くの皆さん方に来ていただきたい、このように思っているところでございます。

次に、児童文化センターのリニューアルオープンでございます。

25年の7月に着工いたしましたこのリニューアル、いろんな工事につきましては、26年の2月末に完成をいたしました。そして4月1日よりオープンをしたいというふうに思っております。また老朽化しておりましたプラネタリウムの改修工事を、これは26年の8月から着工しまして本年の3月31日に完成をいたします。これに伴いまして、全ての施設がリニューアルをしたところでございます。

工事費等々の内訳は、そこに記載のとおりでございますし、利用しやすいように改修をいたしましたところでございます。ここに書いてございますエレベーターでありますとか、トイレを新しくとか、ホールや乳幼児室の床の張りかえ等々を行ったところでございます。

またプラネタリウムにつきましても、今までは光学式のみでございましたけれども、最新の光学式投影機とデジタル式映像投影機を併用いたしましたハイブリッド式の投影システムに更新をすることによりまして、よりリアルで美しく臨場感あふれる星空を楽しむことができるというふうに思います。ぜひ多くの皆さん方にごらんになっていただきたい、このように思っているところでございます。

次に、市内の小学校の休校についてでございます。

27年度から西浦及び常宮小学校が休校というふうになります。なお休校式につきましては3月24日に行いたいというふうに思っておるところでございます。これはそれぞれの地域の皆さん方が、もう少し人数の多いところで勉強させたいというそういう思いの中で、保護者、また子供たちの希望によってこういう形になったところでございます。それぞれ松原小学校のほうにスクールバスで通学される予定でございます。

私のほうからは以上です。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、ただいま発表させていただきました5つの項目について質問を承りたいと思います。

最初に、幹事社様からありましたらどうぞ。

【記者】 よろしくお願ひします。

今回の予算編成は、市長選が控えているということもあって骨格予算なわけなんですけれども、それでも喫緊の重要課題に対しての計上というのはあると思いますし、今回の予算について、市長の所感というか受けとめというか、そういったものをちょっと聞かせてもらえますか。

【市長】 これは通年、この時期は骨格予算で組みまして、また新しく市長に就任された方の思いもあるというふうに思いますから、そこで肉づけをしていただく形であります。このような予算も私も5回組んでまいりましたので、そのような形になりましたし、思いとすれば、やはり基本的には敦賀市がもっともっと発展をし、また住んでいる皆さん方が安心、安全で暮らせる、そのようなまちづくりに資するような予算に肉付けして組んでい

ただけならいいなというふうに願っております。

【秘書広報課長補佐】 よろしいでしょうか。

それでは、各社ございましたらお伺いをさせていただきます。

【記者】 今の予算の関係なんですけれども、骨格とはいえ、人口減少対策の部分というのは重点を置いて配分したということなんですけれども、それについては地方創生も絡むのかもしれないんですが、その辺については喫緊の課題であるとか、出おくれではいけないというような、そういうようなご認識をお持ちということなののでしょうか。

【市長】 恐らく人口減少対象等々については、どなたが市長になられてもしっかりやらなくてはならない重要な課題だというふうに思っておりますし、待たなしの施策だというふうに思っています。そういう意味で、今回も当初の中で盛り込ませていただいたところでございますし、恐らく次期の市長の方もこれは納得をいただけるんじゃないかなというふうに思います。

【記者】 小学校の休校についてお聞きしたいんですが、これは閉校ではなく休校になるんですか。

【教育長】 そのとおりです。

【記者】 休校中は、学校は活用はされないということなんですか。

【教育長】 それにつきましては、今後どのような活用の仕方があるかということも並行的に考えてまいりたいと思っています。

【記者】 休校扱いということは、いずれ子供さんがふえれば、また学校をそこでやる可能性が残っているということなんですか。

【教育長】 言葉の上ではそうです。

【記者】 事実上はないんですか。

【教育長】 難しいかもしれません。

【記者】 わかりました。

【記者】 今の学校のことですが、幾つかございまして、小学校への通学を希望したためこういう措置をとったとありますが、この希望のとり方、その結果がどうだったのかということをお教えいただけますか。

【教育長】 まず指定学校変更といいまして、保護者の方が近隣の単式の学級に行きたい場合にそれを認めるという、そういう制度を通学区審議会の中の特例の中に設けました。その制度を利用して、2年ぐらい前から数多くの保護者の方々が徐々に松原小学校に移動を始められました。そのことにより、他の児童、やはり行くのであれば同じ学校に行きたいという、そういう流れでこのような結果になりました。

【記者】 わかりました。西浦も常宮も小中学校でしたっけ。西浦だけが小中学校でしたか。中学校は当然残っていらっしゃるんですね。今の中学校の現状というのをまず教えてくださいいただけますか。

【教育長】 中学校は既に昨年の末において休校いたしまして、松陵中学校に通っております。

【記者】 失礼いたしました。

それではもう一つ、ついでですけれども、保護者の方々のご希望でということとは、教育的な観点、教育的な配慮からこのような措置をとったというふうに考えられますが、一方で、地域の核として学校の存在というのは非常に大切な場であると思うんですね。そういった観点から小学校を、事実上の廃校だと思うんですけれども、こういうふうにしていくということについて、どのような所感をお持ちか。もし市長もあわせて考え方があればお聞かせください。

【市長】 確かに地域にあります学校というのは、歴代といいますか、今おじいちゃんやおばあちゃんになっている皆さん方も通われておった学校でありますから、非常に心のふるさとの要素も持っておるというふうに思います。なくなること自体、休校になるということは非常に寂しい思いをされるんじゃないかなというふうに思いますけれども、やはり子供たちの、学校というのは、もちろん地域も大事でありますけれども、一番大事なのは子供たちのために何をやっていけるかということが一番重要であるというふうに思います。そういう意味では、親御さんを含めて子供たちもそういう形を選ばれたというふう

思いますので、寂しい思いはあるというふうに思いますけれども、恐らく地域の皆さん方にもご理解をしていただけるんじゃないかなというふうに思っています。

【教育長】 今市長が申されたとおりでございますけれども、その後、教育委員会として我々がすべきことは、そういう地域の文化が消えていくみたいな、そういう思いを持たないようなサポートといいますか働きかけ、そういうものを今後もしっかりとやっていかなければいけない。そういう思いであります。

【記者】 しつこくて済みません。今、私、自分の言葉で事実上の廃校だと申しましたが、そういう認識でよろしいでしょうか。

【教育長】 あくまでも休校でございまして、もしこの学校に通学させたいという保護者が出てきた場合、やはりそれに対応しなければいけないという原則論はございます。

【記者】 最後にします。小学校、中学校の施設というのは、原子力防災の中でも1次何とかということでも重要な施設となっております。その辺の今後の使い勝手について、ご説明願えますでしょうか。

【市長】 もちろんこれは放射線を防ぐようなそういう部屋もつくっていますから、防災上は休校にはなっておりますも十分活用できるようにはしていきたいと思っています。

【記者】 今に関連して伺いたいんですけれども、教職員の方々というのは今後どういうふうな動きをされるのでしょうか。

【教育長】 これは県費負担教職員でございますので、県の職員としてそれぞれ配置がえをしていくという、そういう作業に入ります。

【記者】 松原小が充実するわけではないのですか

【教育長】 敦賀市全体の中で、例えば西浦小学校、あるいは常宮小学校におられた先生方をどのような学校に配置していくかという、これは全体的に考えなければいけませんし、子供たちの心のフォローということで行きますと、やはり若干の方々は松原小学校にという、そういう配慮も必要かと思えます。

【記者】 今の小学校の件なんですけれども、今、西浦小に8人いらして、常宮小に13人いらして、この保護者の方がどういうきっかけで。市がどうしますかと尋ねたところ、松原小に行きたいと答えられたということなんでしょうか。

【教育長】 どうしますかということではなくて、通学区域審議会のそういう指定学校を変更する要件がありまして、その要件の中に、先ほども申し上げましたけれども複式学級ではなく単式の学級で教育を受けさせたいという願いがある場合には、それを認めますということで、あくまでも保護者からの申請によりそれを我々は受理していくという、そういう流れでございます。

【記者】 そうすると、保護者の側から、この4月以降に当たっては複式学級じゃないところで学ばせたいという申請が全員からあったということになるんですか。

【教育長】 そのとおりで。

【記者】 それともう1点、先ほどの放射線防護施設の絡みなんですけれども、西浦小は工事済みたてというか、できたばかりかなと思うんですが、どなたか詰めることになるんですか。

【木村副市長】 いえ、誰も詰めるような形にはなりませんけれども、今後も学校の休校ということで、その学校の使い方も含めながら地元との調整をしていかなければいけないのかなというふうに思っています。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございませんか。よろしいですか。

それでは、次第3番目のフリーの質問へと移りたいと思います。これも幹事社様から何かございましたらどうぞ。

【記者】 ふだんはフリーの質問になると原子力行政に関する質問が結構出ると思うんですが、今回は、今後の市政にもかかわってくる重要なところで、恐らく市民も関心もあるであろう市長選のことについて伺いたいと思います。

市長は後継指名されてから塚本副市長、そして福谷元議員を後継指名してきて、結果的に2度それが失敗という形になったんですけれども、まずこれに対しての受けとめ方というのを聞かせてもらえますか。

【市長】 まずやはり非常に残念であります。5期市長をやらせていただいて、そして第

6次総合計画もできましたし、それに基づいてのまちづくりを行っていただける方と思ひまして指名もさせていただいたんですけれども、なかなか市長選挙ともなりますと色々な大変なことも、自分自身もやってきて大変だったなという思いはありますけれども、そういうものがあって、特に福谷君においては断念をされたということで、非常に私にとりましては残念至極でございます。

そういうことで、まだ会見はしておりませんが新しい中村さんが出馬をされるようでもありますので、お話を聞きますと私の路線を引き継ぎながら頑張りたいということもおっしゃっておいりましたので、そういう方が就任をしていただければ大変ありがたいなというふうに思っております。

【記者】 恐らく週明けに会見される中村さんについてなんですけれども、市長は後継指名はされないけれども実質的に支援していくというような形で捉えていいのでしょうか。

【市長】 そのとおりであります。

【記者】 わかりました。

先ほど市長、今回の会見がラスト2だというふうなことをおっしゃったと思うんですけれども、今後、政治は一寸先は闇と市長はよく言っておられると思うんですけれども、どういふ状況になるかわからないですが、現段階においては基本的に市長ご自身は次の選挙には出られないというようなことでよろしいですかね。

【市長】 基本的にはそうであります。

【記者】 一方で、続いて、市長じゃなくて塚本副市長に伺いたいと思います。

塚本副市長は、あと約2年の任期を残されているわけなんですけど、副市長職として。4月以降、塚本副市長は、その職にとどまるおつもりなののでしょうか。そこら辺ちょっとお願いします。

【塚本副市長】 非常に微妙な質問なんですけれども、9月1日に市長から後継を受けまして、いろいろと考えさせていただいた中で、まことに申しわけないながらということで、たしか10月27日でしたか記者会見をやらせていただいて、出馬はできないという話をさせていただきました。そういった中で、そのときは誰も私たちも、僕が出られない中で誰かいい人が出てほしいなというふうな働きかけはしてきたということは申し上げたんですが、その時点においては誰も具体的な名前を挙げるまでに至らなかった中で、出馬は辞退させていただきますという記者会見と、そして常識的には市長とともにやめるのが常識的だろうというような話もさせていただいたわけです。

そういった中で、それが報道されまして、その後いろんなご意見をいただきました。潔い形だという人もいれば、市長選挙には出ないし副市長はせんという非常に無責任極まりないというようなご意見も多々いただいたわけでございます。

今、市長の話の中にかかなり具体的に候補者の名前が決まってきた中で、私とすれば前回の記者会見の反省を踏まえた中で申し上げれば、今そういったことは、副市長を決めるというのは、市長が新しい方が決められればいいというふうに思っていますし、それに先んじて横柄に、横柄な態度でやめるとかやめないとか、そういうようなことは前回の記者会見の反省に立てば申し上げるべきではないというふうに思います。しっかりとそこら辺は節目、節目で、いろんな人の意見を聞いて判断していくことかなというふうに思っております。

【記者】 新しい市長から引き続きとどまってくれというような要請があれば、それに応じる姿勢というか、そういう気持ちでいるというようなことなんですか。

【塚本副市長】 繰り返しになりますが、先走って横柄に、誰がなろうとしないとか、そういうようなことを申し上げていく立場にはなかったかなというふうに反省しています。

【記者】 これでもう最後にしますが、塚本副市長は、不出馬するというときの会見のときに、後継の後継を探すために注力するとおっしゃっていたと思うんですけれども、今回の名前が挙がっている中村さんについても、中村さんが立候補することについても、塚本副市長は何らかの形でかかわっているというようなことでよろしいのでしょうか。

【塚本副市長】 それはどういう意味なのかよく理解できませんけれども、私がどうかしたとかそういう話ですか。

【記者】 後継の後継を探すのに注力するとおっしゃっていたので、そういう形の一連の

ものなのかなと思っています。

【塚本副市長】 そのときは、私がいろんな方に声を掛けた中には、記者会見の時には対象の外の方でした。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社ございましたら承ります。何かございますでしょうか。

【記者】 市長選の話とは別なんですけれども、塚本副市長の残り任期の先行きというのがわからない状況の中で、そんな大げさなものではないですが、博物館通り、博物館の改修等々終わって、ある程度の形になってきているんですけれども、これまでの懸案である敦賀酒造の取得の件については、現時点でどのようなお話になっているのでしょうか。

【塚本副市長】 はっきり申し上げて、ここ2年ばかりは接触しておりません。これは再三にわたって申し上げてきたことなんですけれども、あの博物館通りで一番正面の敦賀酒造というのは、ここをしっかりとやらないとあの博物館通りに点睛を欠くというような感じになると私は思っているんです。ですからここは粘り強くやっていかなあかんと思いますし、今、博物館がほぼ復元できてきた。さらににぎわいが出てくるような雰囲気の中で、そういう状況がずっと続いていけば、必ずや敦賀酒造の方々と交渉する機会は必ず設けたいというふうに今現在の時点においては思っております。

【記者】 接触自体がないということですか。

【塚本副市長】 この2年間というのは正確かどうかわかりませんが、少なくとも、ある方が間に入っていていただいて沖縄の方と話をしてきたんですけれども、なかなか私や部長がお会いできるには至らなかったということです。それからとまっております。

【記者】 話し合いのテーブルに着く、その糸口というのは現時点では見えていないということですか。

【塚本副市長】 現時点においては見えていません。ただ、そういう中でやっぱりあの博物館通りのにぎわいがすごく、おおっというような感じになってくれば、これはぜひお考えいただきたいとも思いますし、そういうことはきっと理解していただけるんじゃないのかなというような思いは持っています。

【記者】 そうしますと、今回、博物館が新しく修復されたとか、一連のある程度の事業がこう進んでいるんだということは、逐一、先方にはご報告なさっているということですか。

【塚本副市長】 相手がそれを興味を持って見ていただいたり聞いていただいたりするかはわかりませんが、いろんな形で弟さんを通じてお話をさせていただいています。

【記者】 市長にお伺いしたいんですが、原子力政策で、昨日、資源エネルギー庁の次長が副知事を訪れて高浜3・4号の再稼働について説明されて、副知事のほうから、再稼働を地元同意するに当たって5つの条件のようなものを提示されたんですが、全原協会長である市長として、再稼働の地元同意の条件というものは市長なりの考えてありますか。

【市長】 全原協全般といいますか全体として、再稼働の条件等々については話し合ったことはございません。やはり個々のサイト、またそれぞれの地域性もありますので。昨日の福井県としての立場は5つの条件。これは極めて適切な条件だというふうに思っておりますし、例えば薩摩川内のほうに行きますと、あそこは地元としてもう同意はされておりますが、どのような話をされたかというのは承知はいたしておりません。これも例えば全原協でそれを統一見解を出して云々ということは、これも考えておりません。

【記者】 もし敦賀市で敦賀原発が廃炉にならず再稼働するという段になったら、昨日の副知事とはちょっと違った条件も出るんですか。

【市長】 その可能性はあります。

【記者】 今、何か想定されている条件ってありますか。

【市長】 今まだその条件を言うまでの段階に行っておりませんので、またその段階に行けば考えられるんじゃないかなというふうに思います。

【記者】 当初予算案の話に戻りますけれども、土木費で北陸新幹線建設事業費負担金というのがありまして、鉄道・運輸機構が実施する認可ルート上の中心線測量等に係る負担金を支出するということなんですけれども、これは、まだルートが決まってないというか話し合いの段階で、敦賀市としては認可ルートと見込んで予算をつけるということでは

いんでしょうか。

【都市整備部長】 今回予算をつけさせていただいたのは、市の負担の対象範囲となる余座から駅部の約1.41キロメートルの部分に関して予算を持たせていただきました。特に今ご質問にあったように、認可ルートに特定してということではなくて、今後もし万が一変更するようなことがあっても、その区間においてこの1.41キロがさほど変化がないという想定のもとで予算を計上させていただいております。

【記者】 南越前との境目のあたりの部分だけ中心線測量の予算をつけたということですか。

【都市整備部長】 余座と新駅の間ということです。新駅、新しい北陸新幹線の駅ができる、その間の区間ということです。

【記者】 わかりました。

【記者】 余座と新駅の間のルートというのは、今、確かに認可ルートとして中池見のルート決まっていますが、今後動く場合には、余座と新駅のルートも何がしかの動きがある可能性があるんでしょうか。中池見のルートが仮に少し150メートルぐらい動いたとして、今の中心線測量の予算がついている部分についても、そこも多少の動きが出てくる可能性があるのか、そこはもう完全に固定をされるものなのか。ちょっとその辺、お教えてください。

【都市整備部長】 もし今の認可ルートが何がしか変更されるということになったとすれば、今申し上げたルートも若干のずれは出てくるというふうに考えております。

【記者】 前回の記者会見からそんなに時間がたっていないと思うんですけども、塚本副市長に、アクアトムです。

【塚本副市長】 中島理事が明確に答えます。

【記者】 福井県と敦賀市とで原子力機構と三者で協議を進めていて、見解の相違があつてなかなか進んでいないという状況で合っているでしょうか。

【理事 企画政策担当】 今おっしゃったように、これまでいろんな手続においてなかなか前に進まない状況が続いていたんですけども、現在は協力をして進めているところでございます。

【記者】 この3月末で休館というか閉館してから丸3年たつということで、商店街の方とか市民の方とかは早く活用するなり何なり、駐車場にするなり何なり役立ててほしいというふうな意見もあるんですけども、市としては、いつをめぐりに出したいとか、そういう方向性というのはどういうふうに考えられているんでしょうか。

【理事 企画政策担当】 なかなかめどといっても、先のスケジュールというのはまだ確立はされておられませんけれども、もし今おっしゃったような批判があるとなれば、以前、塚本副市長もお答えをされましたけれども、各関係機関、市も含めてですけども、その批判は甘んじて受けなければならないだろうなというふうに思っております。

【記者】 県の方に聞いたら、知事選もあるので政策的な話になるので、知事選の後にそういうふうな予算づけとかはなるだろうというふうに聞いているんですけども、敦賀市としても今回の当初とか補正とかには入っていないから、市長選の後に申請とか具体的な持ち越しということになるんでしょうか。

【理事 企画政策担当】 その点については、今、関係機関等と影響も考えまして、ちょっとその内容については差し控えさせていただきたいなと思います。

【記者】 影響というのは、どういうふうな影響が。

【理事 企画政策担当】 いいこともあるでしょうし、悪いこともあるでしょうし。

【秘書広報課長補佐】 ほかによろしいでしょうか。

ないようですので、それでは、これをもちまして3月の市長定例記者会見を終わらせていただきます。

ご協力ありがとうございました。

午後2時7分 終了